

# マダニによる感染症に気をつけましょう！

ダニ類の中には「ウイルス」や「リケッチア」という病原体をもっているマダニがいます。この病原体をもったマダニに刺されることで、「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」や「日本紅斑熱」等に感染する恐れがあります。



## ◆重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

2011年にはじめて特定されたSFTSウイルスに感染することにより引き起こされる病気で、咬まれてから6日～2週間後に、発熱(38度以上)、食欲低下、吐き気、おう吐、腹痛、下痢などの症状がでます。時に、意識障害やけいれんなど、重症化して死亡する例もあります。

## ◆日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアに感染することにより引き起こされる病気で、咬まれてから2日～8日後に身体がだるい、高熱(39～40度以上)、発疹などの症状がでます。

★マダニが生息する場所に立ち入る時は、咬まれない工夫をしましょう★

マダニが生息する場所：山林、草地などの他、公園や田や畑等（特に、春から秋にかけて活動が盛んになり注意が必要です！  
剪定や草取り等の際には注意してください。）

### 予防法

- ◆長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用、首筋にはタオルを巻くなど、肌の露出を少なくしましょう。
- ◆肌が出る部分は、防虫スプレーを噴霧しましょう。
- ◆地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたりしないようにしましょう。
- ◆屋外活動後は、シャワーや入浴で、マダニが付いていないかチェックしましょう。
- ◆作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◆やぶ等で、犬や猫などの動物にマダニが付くことがあります。ダニ駆除薬もありますので獣医師にご相談ください。
- ◆SFTS を含めた動物由来感染症の感染防止のため、ペット及び野生動物との過剰なふれあいを控えましょう。また、ペットが体調不良の時は、動物病院を受診しましょう。

## ☆もしマダニに咬まれたら？

マダニに咬まれても、痛みやかゆみはあまりなく、気づかないことが多いようです。

屋外活動後の着替え時などに、体にマダニが吸着していないかどうか確認してください。

吸血中のマダニに気がついた際は、できるだけ医療機関で処置してもらいましょう。

無理に引き抜くとマダニの一部が皮膚の中に残る場合があります。

マダニに咬まれた後、1～2週間に発熱・発疹等の症状が出た場合は、医療機関を受診し、マダニに咬まれたことを教えてください。

香川県健康福祉部薬務感染症対策課 TEL 087-832-3304

香川県感染症情報

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subsite/kansenshoujouhou/index.shtml>